

2023年7月26日
公益財団法人イオン環境財団

世界自然遺産の保全を目的に奄美大島・徳之島へ寄付

-奄美大島・徳之島と保全の取り組みを連携-

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田元也 イオン株式会社 取締役代表執行役会長 以下当財団）は、世界自然遺産の登録地である奄美大島・徳之島の自然環境保全を目的に、寄付を実施するとともに、現地での環境活動に取り組みます。

2021年7月「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」が日本で5件目の、世界自然遺産として登録されました。当地域は、世界の生物多様性ホットスポットの一つであり、国内でも生物多様性が突出して高い地域として評価されています。

当財団は、これまで竹富町西表島、及び国頭郡3村と世界自然遺産保全を目的に、連携を始めました。国頭村での植樹や、西表島においては深刻な問題となっている漂着ゴミ問題に取り組むために、ビーチクリーン活動を約100名のボランティアの皆さまと実施しました。

このたび、奄美大島と徳之島と、同じく世界自然遺産保全を目的に、地域の皆さまとともに連携を始めます。植樹やアマミノクロウサギのロードキル対策、外来植物対策など、継続して環境活動を実施していきます。

当財団は、ひとつしかない地球を守るため、今後も様々な環境活動に積極的に取り組んで参ります。

■奄美大島 寄付金贈呈式の概要

日時：2023年7月26日（水） 11：00～11：30

場所：奄美大島世界遺産センター

寄付先：奄美大島自然保護協議会

寄付金：1,000万円

出席者：	奄美市	市長	安田 壮平 様
(予定)	大和村	村長	伊集院 幼 様
	宇検村	村長	元山 公知 様
	瀬戸内町	町長	鎌田 愛人 様
	龍郷町	町長	竹田 泰典 様
	奄美群島国立公園管理事務所	所長	阿部 慎太郎 様
	イオン九州株式会社 上席執行役員コーポレートコミュニケーション本部長		武富 恭子
	公益財団法人イオン環境財団 専務理事		山本 百合子

■徳之島 寄付金贈呈式の概要

日時：2023年7月27日（木） 11：00～11：30

場所：伊仙町中央公民館2階ホール

寄付先：徳之島世界自然遺産推進協議会

寄付金：1,000万円

出席者：	伊仙町	町長	大久保 明 様
(予定)	徳之島町	町長	高岡 秀規 様
	天城町	町長	森田 弘光 様
	イオン九州株式会社 上席執行役員コーポレートコミュニケーション本部長		武富 恭子
	公益財団法人イオン環境財団 専務理事		山本 百合子

以上

ご参考

【公益財団法人イオン環境財団】

「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと、岡田卓也（イオン株式会社名誉会長相談役）により、日本で初めて地球環境をテーマにした企業単独の財団法人として、1990年に設立されました。以来、多様なステークホルダーの皆さまとともに、万里の長城での植樹をはじめとする「植樹」「環境活動助成」「環境教育」「パートナーシップ」の4つの事業を中心に活動に取り組んでいます。現在は、持続可能な地域の実現を目的に、新たな里山づくりにも取り組んでいます。

＜世界自然遺産に関連する取り組み＞

2002年～2006年 北海道知床植樹

明治後半以来、放置された開拓跡地では、自然の生態系が崩壊の危機に瀕していました。1977年に当時の町長のもとで「しれとこ100平方メートル運動」が、環境の保全や植樹を行うためにスタートしました。当財団はそれに賛同し、5年間にわたり約1,610名のボランティアの皆さまとともにエゾアカマツを中心に9,003本を植樹しました。



2017年～ 日本ユネスコエコパークネットワークとの連携

「生態系の保護・保全のみならず、自然と人間社会の共生に重点を置く」というユネスコエコパークの理念に賛同し、日本ユネスコエコパークネットワークと連携協定を締結し、ユネスコエコパークフェアや、環境活動を実施しています。2018年には、世界自然遺産でもある、屋久島・口永良部島ユネスコエコパークと、島内外から集まった若者たちが、5年後の口永良部島の未来と、自分達でできることを考える、口永良部島未来会議を開催しました。



2022年 沖縄県国頭村植樹

国頭村において、自然環境の保全を目的に、安田くいなふれあい公園にて15名のボランティアの皆さまとともに300本の桜を植樹しました。また、将来の首里城の建材となるイヌマキを、辺野喜ダム周辺にて50名のボランティアの皆さまとともに80本植樹しました。



2022年 イオンエコワングランプリ水平展開 赤土流出防止の取り組み

沖縄県では、赤土の海への流出による、サンゴ礁を含む生態系への影響が問題となっております。「第9回イオンエコワングランプリ」にて環境大臣賞を受賞した、青森県立名久井農業高校が取り組む、三和土を用いた土壌侵食抑制の取り組みを、赤土流出対策に応用するために、沖縄県立辺土名高校と連携した取り組みを実施しました。



2023年 西表島ビーチクリーン

深刻な問題となっている、西表島に大量に流れつく漂着ごみを回収し、ごみのモニタリング調査など、地元の皆さまとともに西表島の自然を守る活動を、約100名のボランティアの皆さまとともに約一時間実施し、拾った漂着ゴミは45L ゴミ袋170袋分となり、そのうちペットボトルは1,952本でした。

